

【2015年3月期 第2四半期（中間）決算記者会見資料】

※実績値は単位未満切り捨て。前年比等の百分率は四捨五入。

①契約の状況等

		2014年9月期			14年3月期 (末)	13年9月期 (末)
		(末)	14/3期比	13/9期比		
新契約年換算保険料	(百万円)	39,069	—	21.8% 増	66,472	32,076
うち第三分野	(百万円)	5,234	—	5.6% 増	9,841	4,956
保有契約年換算保険料	(百万円)	663,479	2.2% 増	3.7% 増	648,952	639,608
うち第三分野	(百万円)	64,847	4.6% 増	9.1% 増	61,982	59,444
保険料等収入	(百万円)	386,985	—	11.0% 増	712,866	348,721
うち個人保険分野	(百万円)	349,448	—	12.2% 増	636,514	311,318
うち団体保険分野	(百万円)	36,545	—	0.1% 減	74,654	36,593
新契約高 <sup>(注)</sup>	(百万円)	1,772,203	—	11.5% 増	3,225,376	1,589,049
保有契約高 <sup>(注)</sup>	(百万円)	36,240,230	0.5% 増	0.7% 増	36,062,630	36,000,375
解約・失効高	(百万円)	1,190,427	—	9.7% 減	2,490,683	1,317,909
解約・失効率	(%)	3.30	—	0.34% <sup>*</sup> イト低下	6.89	3.64

※保険料等収入以外は個人保険＋個人年金保険

※3月期比、9月期比は増減率（解約・失効率は増減ポイント）

※保険料等収入は損益計算書ベース

※解約・失効は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出（9月期の解約失効率は年換算前）

※保険料等収入のうち個人保険分野は個人保険＋個人年金保険、団体保険分野は団体保険＋団体年金保険の合計保険料

※年換算保険料の対象は個人保険と個人年金保険。年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の払込回数に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額（一時払契約等は、保険料を保険期間等（個人年金保険は年金開始時までの期間）で除した金額）

（注）定期保険と並んで主力商品である「Jタイプ（無配当重大疾病保障保険）」の重大疾病保険金額および「Tタイプ（無配当就業障がい保障保険）」（2014年9月発売）の就業障がい保険金額を加算した金額でみた場合、次のとおりです。

（「Jタイプ」および「Tタイプ」は普通死亡の保障がないため、新契約高・保有契約高には計上していません。）

新契約高	(百万円)	2,041,961	—	11.9% 増	3,698,182	1,824,832
保有契約高	(百万円)	37,662,276	1.1% 増	1.8% 増	37,255,621	36,987,572

②資産の状況等

		2014年9月末			14年3月末	13年9月末
			14/3末比	13/9末比		
総資産	(百万円)	5,753,795	3.2% 増	5.8% 増	5,572,800	5,439,520
実質純資産額	(百万円)	1,102,330	11.1% 増	23.5% 増	992,569	892,230
実質純資産額／一般勘定資産	(%)	19.2	1.3% <sup>*</sup> イト上昇	2.7% <sup>*</sup> イト上昇	17.9	16.5
ソバ <sup>®</sup> マージン比率	(%)	1,295.3	138.9% <sup>*</sup> イト上昇	213.5% <sup>*</sup> イト上昇	1,156.4	1,081.8

※3月末比、9月末比は増減率（実質純資産額／一般勘定資産、ソバ<sup>®</sup>マージン比率は増減ポイント）

③基礎利益・逆ざや

		2014年9月期			14年3月期	13年9月期
			14/3期比	13/9期比		
基礎利益	(百万円)	50,728	—	6.1% 増	110,673	47,793

※9月期比は増減率

		2015年3月期の予想	2014年3月期の実額
逆ざや額（正值の場合は順ざや額）	(百万円)	9,000	24,373

④準備金

		2014年9月末			14年3月末	13年9月末
			14/3末比	13/9末比		
責任準備金（除く危険準備金）	(百万円)	4,836,979	108,383 増	179,365 増	4,728,595	4,657,614
うち一般勘定（除く危険準備金）	(百万円)	4,815,050	107,929 増	178,686 増	4,707,121	4,636,364
うち特別勘定（除く危険準備金）	(百万円)	21,928	454 増	679 増	21,474	21,249
価格変動準備金	(百万円)	75,904	1,059 増	8,039 増	74,844	67,865
危険準備金	(百万円)	61,631	973 増	2,218 増	60,658	59,413
うち危険準備金Ⅰ	(百万円)	38,638	288 増	357 増	38,350	38,280
うち危険準備金Ⅱ	(百万円)	18,221	528 増	1,559 増	17,692	16,662
うち危険準備金Ⅲ	(百万円)	841	24 増	47 増	817	794
うち危険準備金Ⅳ	(百万円)	3,929	131 増	253 増	3,798	3,676
危険準備積立金	(百万円)	—	—	—	—	—
価格変動積立金	(百万円)	—	—	—	—	—
別途積立金	(百万円)	132,000	—	3,000 増	132,000	129,000

※3月末比、9月末比は増減実額

※14年3月末の別途積立金は、剰余金の処分後の残高を記載

⑤含み損益

		2014年9月末		14年3月末	13年9月末
			14/3末比		
有価証券	(百万円)	381,571	78,331 増	129,710 増	251,861
うち国内株式	(百万円)	124,426	26,879 増	37,325 増	87,100
うち国内債券	(百万円)	189,983	32,893 増	54,956 増	135,027
うち外国証券	(百万円)	46,685	15,954 増	34,281 増	12,403
うちその他の証券	(百万円)	12,118	3,232 増	3,422 増	8,695
不動産	(百万円)	21,279	10 減	2,811 増	18,467

※3月末比、9月末比は増減実額

※有価証券の含み損益は、有価証券のうち時価のあるものについて、責任準備金対応債券および満期保有目的の債券の差損益、その他有価証券評価差額の合計値を記載。

※不動産の含み損益は、国内の土地および借地権を対象としています。なお、再評価は実施していません。

また、時価の評価を原則として鑑定評価額とし、重要性の低い物件等については公示価格を基準としています。

⑥運用実績と計画

		上期実績	下期計画
国内株式	(百万円)	49,100 減	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内株式は、外国株式を含めた「内外株式」として株価水準に応じて残高を増減。</li> <li>国内債券は、金利水準を勘案しながら償還再投資を中心に残高を維持。</li> <li>外国債券は残高を増加させる方針だが、金利水準に応じて投資額を増減。</li> <li>国内インフラ等、今後市場の成長が期待できる分野への投資を進めていく方針。</li> </ul>
(国内株式投信等を含む)		45,458 減	
国内債券	(百万円)	51,642 減	
外国株式等	(百万円)	12,560 増	
外国債券	(百万円)	271,689 増	
不動産	(百万円)	581 増	

※上記実績は、約定金額の増減合計により算出しています。また、金銭の信託の設定・解約に伴う資金異動額を含めています。

※国内株式のうち“(国内株式投信等を含む)”は、主たる投資対象を国内株式とする投資信託を含めて記載しています。

⑦資産の含み損益がゼロになる水準

		2014年9月末時点
国内株式(日経平均)	(円)	7,100 程度
国内株式(TOPIX)	(ポイント)	580 程度
国内債券	(%)	1.2 程度
外国証券	(円)	100 程度

※上記数値は、当社のポートフォリオが日経平均株価やTOPIX、新発10年国債利回り、ドル円レートに連動すると仮定し、2014年9月末時点の保有状況により試算した結果です。ただし、当社のポートフォリオはこれらの指標に連動するとは限りませんので、試算時点によりこれらの数値は異なります。

※国内債券は新発10年国債利回り(9月末0.531%)換算し、小数点第一位まで算出しています。なお、9月末のイールドカーブが平行移動した場合の含み損益がゼロとなる新発10年国債利回りの試算値を記載しています。

※外国証券はドル円(9月末109.45円)換算にて算出した為替要因のみの含み損益がゼロになる水準です。なお、為替にかかるヘッジ会計適用分を除いて算出しています。

⑧2015年3月期の業績見通し

		2015年3月期の予想
保険料等収入	(百万円)	740,000
基礎利益	(百万円)	89,000
保有契約高 <sup>(注)</sup>	(百万円)	36,010,000
保有契約年換算保険料	(百万円)	660,000

(注)「Jタイプ(無配当重大疾病保障保険)」の重大疾病保険金額および「Tタイプ(無配当就業障がい保障保険)」の就業障がい保険金額を加算した保有契約高の見通しは、次のとおりです。

保有契約高	(百万円)	37,690,000
-------	-------	------------

⑨銀行との資本持ち合いについて

i 銀行からの抛出(総額)

		2014年9月末
基金(株式)に対する抛出	(百万円)	該当なし
劣後ローン等	(百万円)	該当なし

※銀行からの抛出の劣後ローン等は、劣後ローン及び劣後債  
 ※銀行からの抛出の株式は9月末の時価

ii 銀行への抛出(総額)

		2014年9月末
保有している銀行株(時価総額)	(百万円)	66,869
劣後ローン等	(百万円)	264,306

※銀行への抛出の保有している株式には、優先株を含む。(各行・グループの海外現法への出資は除く)  
 ※銀行への抛出の劣後ローン等は、劣後ローン、劣後債及び優先出資証券

⑩職員数

		2014年9月末		14年3月末	13年9月末	
		14/3末比	13/9末比			
営業職員	(人)	3,702	3.4%減	6.9%減	3,833	3,975
代理店	(店)	13,351	0.6%減	1.7%増	13,432	13,124
内勤職員	(人)	3,174	0.6%減	2.5%減	3,192	3,255

※3月末比、9月末比は増減率

⑪銀行窓販の状況

当社は銀行窓販を行っておりませんので、該当事項はありません。

以 上

その他質問項目（2014年9月）

○変額年金保険等の最低保証に係る一般勘定の責任準備金 繰入・戻入の状況

		2014年9月期	14年3月期	13年9月期
変額年金保険等の最低保証に係る 一般勘定の責任準備金 繰入・戻入	(億円)	△ 0	△ 0	△ 0

※戻入額については△で表示